

～令和6年12月静岡県議会定例会における質問～

質問者：田中 照彦 議員

質問日：令和6年12月9日（月）【3番目】

会派名：ふじのくに県民クラブ

項目	1 再生可能エネルギー導入拡大に向けた今後の取組について
答弁者	経済産業部長
質問要旨	<p>政府は、「GX推進戦略」やエネルギー基本計画の改定作業で、再生可能エネルギーの導入拡大に取り組み、2030年度の電源構成に占める比率36～38%の達成を目指し、太陽光発電の適地へ導入、ペロブスカイトや浮体式洋上風力の社会実装化等を推進している。特に洋上風力発電は、洋上の風速が陸上より2～3割ほど強く、発電量は5割以上も多く効率的で、中でも浮体式洋上風力発電は、洋上風力発電の主力電源化に向けた切り札とされている。</p> <p>本県においては、御前崎付近は10m/sの風がふく、風力発電に適した海域であり、浜松市からも期待の声を聞いており、私も県内に洋上風力に適した地域があるのではないかと考えている。</p> <p>県では、9月補正予算で洋上風力発電をはじめ、再生可能エネルギーの導入拡大に向けた基礎調査を実施し、ふじのくにエネルギー総合戦略の中間見直しにも取り組む方針で、今回の基礎調査により、洋上風力を含めた多様な再生可能エネルギーの導入可能性について、地域を巻き込んだ議論が進展することを期待している。</p> <p>今後、基礎調査の結果を踏まえ、どのように再エネの導入拡大に向けた議論を進め、来年度の「ふじのくにエネルギー総合戦略」の中間見直しに反映するのか、県の考えを伺う。</p>

<答弁内容>

再生可能エネルギー導入拡大に向けた今後の取組についてお答えいたします。

令和3年に策定した「ふじのくにエネルギー総合戦略」では、県内の電力消費量に対する再生可能エネルギー等の導入率を、令和元年度の17.2%から、令和12年度には30.6%まで拡大する目標を掲げ、太陽光や小水力、バイオマス発電等の導入拡大に取り組んでおります。

戦略策定から3年が経過し、カーボンニュートラル社会の実現に向けた動きが世界的に加速する中、国では、再生可能エネルギーの主力電源化を目指し、原発20基分のペロブスカイト太陽電池の導入や、洋上風力発電の一層の導入促進策などを、新たに次期エネルギー基本計画に盛り込む予定であります。

県では、こうした国の動きに呼応し、再生可能エネルギーの更なる導入拡大に向け、来年度、エネルギー総合戦略を見直します。今年度は、太陽光発電の適地や、ペロブスカイト太陽電池の利用可能性、洋上風力に係る自然的・社会的状況について調査を